

令和6年度
事業報告書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

目次

■ 事業の概要	2
■ 具体的な取り組み	
【公益目的事業会計】	
I 北九州学術研究都市の機能強化	
1 人材育成の推進	3
2 学研都市の国際化の推進	9
3 学研都市の効果的な運営	10
II 産学連携による技術力の強化及び新事業の創出、生産性向上等の取組	
1 情報発信と連携の場の創出	14
2 研究開発の支援と事業化の推進	15
3 ロボット・DXの一体的推進による生産性向上等の支援	23
III 中小企業の経営支援と創業の促進	
1 中小企業の経営支援と創業支援	33
2 知的財産権関連支援	33
【収益事業等会計】	
(1) 学研都市施設活用事業	34
(2) 財団ビル運営事業	34
【法人会計】	
(1) 財団の管理運営等	34
■ 事業報告の附属明細書	35

■ 事業の概要

公益財団法人北九州産業学術推進機構（以下、「FAIS」という。）は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市（以下、「学研都市」という。）を中心に、北九州地域における産学官連携による研究開発及び学術研究を推進する等により、産業技術の高度化及び活力ある地域企業群の創出・育成に寄与することを目的に、大学・研究機関と産業界との連携の推進や、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援を行っている。

現在、学研都市では、国・公・私立の大学1学部4大学院、企業55社及び研究機関12機関等が集積し、学生、教員、企業関係者などを合わせて約3,500名が、教育や研究開発等に取り組んでいる。

令和6年度は、引き続き学研都市の指定管理者として共同利用施設等の適切な管理運営を行うとともに、産学連携の推進、地域企業の経営支援に取り組んだ。

令和5年度から引き続き、次世代自動車、ロボット、AI、半導体、GX（グリーントランスフォーメーション）等、今後の地域産業を支える未来産業分野における人材育成や研究開発を支援し、産業技術創出の基盤づくりを推進するとともに、ロボット・DX推進センターや中小企業支援センターを通じて地域企業の生産性向上や経営課題解決に向けた伴走支援を実施した。

また、地域DX（デジタル技術を活用した新たな地域経済づくり）の推進に向けた地域企業等による自律的な活動を支援するため、新たに「地域DX共創事業」を立上げ、地域内でのデジタル化・DX推進の機運向上を推進した。

さらに、「地域に開かれた学研都市づくり」を目指し、「ひびきの祭」や「デジタルクリエイター教室」等のイベントを通じて地域との交流、連携を深めるほか、国内外のサイエンスパーク等との交流や首都圏等における情報発信を推進し、学研都市の機能強化に努めた。

■具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

Ⅰ 北九州学術研究都市の機能強化

1 人材育成の推進

学研都市3大学で学ぶ学生向けとして、学研都市3大学が運営する連携大学院の運営をサポートし、産業界への優秀な人材の輩出を支援するとともに、北九州市立大学が実施している社会人向け人材の育成プログラムである everiPro や everiGo 事業を支援した。

また、地域企業の技術力向上や生産性向上を支援するため、自動車、AI、ロボット、半導体、情報技術等に関する各種セミナー・講座等を実施した。

(1) 連携大学院関連

学研都市3大学による「自動車」「ロボット」「AI」分野に関わる教育を「カーロボ AI 連携大学院」として実施しており、引き続き、同大学院の教育プログラムの運営を支援し、次世代を担うリーダーとして高度専門人材の育成に取り組んだ。(令和6年度修了生：47名)

また、自動車やロボット等の分野においても、センサー技術が不可欠となるなど、半導体の基礎知識を有する人材のニーズが高まっていることなどから、令和6年度より新規実習科目として、講義(座学)と共同研究開発センターのクリーンルーム内実習とを組み合わせた「半導体基礎講座・デバイス試作実習」を開催した(受講者15名)。

加えて、企業のエンジニアと学生とのディスカッションによる職業観醸成や就職に向けたきっかけづくり(オフサイトミーティング)及びセミナーを開催するとともに企業へのインターンシップに際しての学生支援を行った。*参加企業数：14社、参加学生数：延べ146名

(2) カーボンニュートラルに向けたCASE対応支援事業(人材育成)

自動車関連中小企業の若手や幹部等を対象として、階層別に必要な能力を身につけてもらうため、ものづくりの基本知識・基本技能から方針管理・原価生産管理・部下の育成指導・CASEなどの次世代技術の導入まで、企業の成長に寄与できる人材の育成を行った。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
若手・中堅技術者育成カリキュラム ① 方針管理、日常管理、QC サークル ② 作業要領書のレベルアップ ③ 2S・5S と安全活動 ④ QC の基礎、QC 手法 ⑤ 問題解決手法 ⑥ 標準化自職場実践活動 [講師] (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター長 中村 聡 コーディネーター 富村 道徳 アドバイザー 中田 朗 自動車担当部長 橋本 晃仁 QCサポート F オフィス 代表 古川 孝介	6月27 ~28日	28名

<p>リーダー・幹部育成カリキュラム</p> <p>① 方針管理、日常管理、小集団管理、人材育成 ② グループ討議 ③ 原価管理、生産性管理 ④ 生産性向上 ⑤グループ討議、発表</p> <p>[講師] トヨタ自動車九州(株) 人財開発室 チーフエキスパート 藤木 雅人 原価企画室長 菊池 義則 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター長 中村 聡</p>	8月22 ~23日	18名
<p>専門技術者育成カリキュラム</p> <p>最新のCASE化動向と今後期待される技術～地域の中小企業 はどのように対応すべきか～</p> <p>[講師] かながわ自動車部品サプライヤー支援センター チーフコーディネーター 柳原 秀基 日産BEVシステムの技術解説と部品構成</p> <p>[講師] 日産自動車(株) 車両計画・車両要素技術開発本部 PT・EV システム設計グループ 主担 重松 聡</p>	11月11日	36名
<p>標準化推進リキュラム</p> <p>①日常業務における作業標準化の重要性 ②作業要領書作成演習 ③作業要領書レベルアップ演習(作業FMEA) ④未然防止型QCストーリー</p> <p>[講師] (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター長 中村 聡 自動車担当部長 橋本 晃仁 QCサポートFオフィス 代表 古川 孝介</p>	3月6~7 日	25名
合 計		107名

また、CASE等新規事業に取り組む企業の体制強化等を図るため、経営者・管理者を対象に、総合的品質管理活動(TQM)の出前講義を実施した。

受講会社・講義内容	開催日	参加者数
<p>松本工業(株)</p> <p>①現場の工程確認、方針管理の実施状況確認、個別重点 取組確認</p> <p>②経営理念、ビジョン、経営目標と戦略、中期経営計 画、会社方針の確認などの体系的整理 新技術開発、情報技術活用、小集団活動など特徴ある活 動内容についての整理</p> <p>③日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 経営理念、ビジョン、経営目標と戦略、中期経営計画、 会社方針の確認とレベルアップのフォロー 方針管理、日常管理などの活動内容の整理</p> <p>④日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 経営理念、ビジョン、経営目標・戦略、中期経営計画、 会社方針の確認とレベルアップ 特徴的活動内容の整理(方針管理、日常管理、新技術開 発、情報技術の活用、小集団活動) 現場の日常管理状況確認</p>	<p>① 6月7日</p> <p>② 8月2日</p> <p>③ 9月18日</p> <p>④10月10日</p> <p>⑤11月26日</p> <p>⑥ 1月10日</p> <p>⑦ 2月6日</p> <p>⑧ 3月11日</p> <p>⑨ 3月28日</p>	<p>①10名</p> <p>②10名</p> <p>③10名</p> <p>④10名</p> <p>⑤10名</p> <p>⑥10名</p> <p>⑦10名</p> <p>⑧10名</p> <p>⑨10名</p>

⑤日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 審査受審にあたっての全体スケジュール調整 経営目標からの KPI ツリーの明確化 実情説明書の記載方法解説 ⑥日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 実情説明書の内容チェックと修正 必要とされるエビデンスや資料の明確化と期限の明確化 経営目標～中期経営計画～会社方針～部課方針、KPI ツリー整理 ⑦日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 実情説明書の内容仕上げ 経営目標～中期経営計画～会社方針～部課方針、KPI ツリ ーまとめ ⑧日本品質奨励賞挑戦に向けたフォロー 実情説明書の内容仕上げ プレゼン資料の骨子作成 ⑨本審査プレゼン資料確認（小集団活動）		
九州シロキ株 ①TQM 活動の進め方、方針管理の進め方、人材育成、組 織能力向上の進め方、個別の重点取組みの確認	①6月21日	①20名
太田機工株（社長、専務向け） ①TQM活動の進め方、ビジョン、経営戦略の策定	①8月28日	①2名
合 計		112名

(3) 次世代自動車勉強会

次世代自動車産業拠点の形成に向け、地域企業の自社技術の活用や新たなビジネスチャン
ス等を検討するための勉強会を開催した。

具体的には、「パーツネット北九州」や「連携大学院」、「北九州自動運転推進ネットワー
ク」、「自動車関連企業電動化参入支援センター」等と連携を図りながら、CASE 対応、自動
運転など次世代自動車に関する学習や研究等を推進した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
①「CASE から SDV (Software Defined Vehicle) へ、急激 に変貌する自動車業界への対応」 (一社) 日本自動車部品工業会 技術担当顧問 松島 正秀氏 ②「独自ダイカスト技術を活用した EV パーツ市場への参入」 嶋本ダイカスト株 営業部部長 山邊 真吾 氏 ③「EV 用車載蓄電池製造装置の開発・製造について」 株プレシード 代表取締役社長 松本 修一 氏 ＊九州経済産業局「CASE 対応セミナー」と合同 ＊パーツネット北九州と連携	7月4日	94名
①「株安川電機における TQM の取組みと今後の展望」 株安川電機 代表取締役会長 小笠原 浩氏 ②「株松本工業における TQM の取組みと今後の展望」 株松本工業 代表取締役社長 館下 繁仁氏 ＊パーツネット北九州と連携	2月10日	130名

「日本版GPSと高精度衛星測位の自動運転への応用」 日本航空宇宙学会第53期会長、九州工業大学客員教授、 JAXA 特任教授 河野 功 氏 *北九州自動運転推進ネットワークと連携	8月8日	71名
「空港～朽網駅自動運転バス実証結果報告」 西日本鉄道(株) *北九州自動運転推進ネットワークと連携	2月18日	62名
合 計		357名

また、連携大学院履修中の学生が、産業界で活躍する技術者の話を聴講し、職業観の醸成に役立てることを目的に、産学交流サロンにて下記のセミナーを開催した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
①「未来のモビリティ社会を築くために、CASEという技術革新と人材育成の取組み」 (株)デンソー パワーデバイス技術部 担当部長 鈴木 晴視 氏 ②「連携大学院における人材育成の狙い～今年度前半の活動を振り返って～」 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 田向 権 氏 ③「オフサイトミーティングの就職活動への活かし方」 北九州市立大学 国際環境工学研究科 情報工学専攻 計算機科学コース2年 岩井 悠 氏 ④「オフサイトミーティング開催について」 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター コーディネータ 富村 道德	10月7日	64名

(4) 北九州市立大学関連(everiGo 関連)

北九州近郊でシステムエンジニアを目指す IT 未経験の方向けの WEB 系システム開発プログラム育成プログラム everiGo (事業主体：北九州市立大学) について、地域のデジタル人材育成事業の一環として、プログラム運営に関するアドバイスや連携先企業の紹介などを行った。

*令和6年度受講者数：40名

(5) AI人材の育成

人工知能 (AI) に関する技術については、産業界だけでなく社会全体を変革するキーテクノロジーとして、国内だけでなく、世界中で研究開発が進められている。学研都市には国内有数の AI 関連の研究者が集積しており、これらの研究者等によって構成された「ひびきの AI 社会実装研究会」での検討を踏まえた取組が進められている。具体的には、スパースモデリングを用いた電力需要予測に関する取組を進めたほか、AI 育成カリキュラムに係る検討をもとに、令和元年度から「カーロボAI連携大学院」の一貫として、「AI セミナー」が運営されている。また、AI を含む、最先端技術の社会人に対する学び直しとして、先述の everiPro 事業も推進した。

(6) ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上支援（現場技術者向けスクール）事業

製造現場の管理者・現場リーダーなどを対象に、生産性向上や新規事業開拓に必要なロボット・IoT・AIといった新技術を身に付けるための研修（スクール事業）を実施した。

スクール事業の講座は、IoT・デジタル編5講座、ロボット編5講座で構成し、予定していた講座はすべて開講した。

受講者は延べ94名、実質受講企業数は46社（デジタルIoT編36社・ロボ編10社）で北九州市内企業が中心であったが、市外からの受講参加もあった。

	No.	科 目	開催日	受講者数
デジタル・IoT編	1	はじめてのkintone 体験講座 操作とアプリ構築をサクッと学ぶ	10月4日	15名
	2	今からすぐできる！無償のRPA×BI ツールで業務効率化	10月11日	15名
	3	「IoT 導入支援キット」による現場の見える化実習講座	11月12日	9名
	4	実践！LINE WORKS で業務改善ハンズオンセミナー	11月19日	11名
	5	生成 AI でビジネスを変える～ChatGPT の使い方と AI の業務導入～	11月26日	13名
ロボット編	1	産業用ロボット基礎講座	9月26日 10月18日 10月31日 11月18日	13名
	2	産業用ロボット活用講座	10月3日	5名
	3	人協働ロボット基礎講座	10月24日 11月14日	7名
	4	人協働ロボット活用講座	10月10日	3名
	5	ロボットシミュレータ活用講座	11月7日	3名
合 計				94名

(7) 市内企業の生産性向上のための提携セミナーの運営

ロボット及びデジタル関連企業等と提携し、地域企業の生産性向上に繋がるセミナーを開催した。公募により募集した13社と提携して、計11回の実機見学・操作体験型のセミナーを開催した。受講者は、地域企業を中心に48社127名であった。

講 座 名	提携企業	開 催 日	受講者数
AI 需要予測の活用方法と運用のポイントセミナー	AI CROSS(株)	7月10日	19名
中小製造業のためのカメラ付協働ロボット活用セミナー	プレミアエンジニアリング(株)	7月17日	13名
Excel 生産管理と現場改善	ものレボ(株)	8月7日	11名

業務自動化・効率化・変革セミナー[レガシー脱却・AI活用・スマートアバター等]	ギグワークスクロスアイティ(株) (有)BOND	9月4日	11名
CAD/CAM自動化セミナー	(株)ブレイン	9月11日	12名
在庫管理セミナー	(株)エスマット (株)バーネット	9月27日	10名
基礎から学べる空気圧機器体験セミナー	SMC(株)	10月17日	9名
生成AI業務活用セミナー	(株)ビピンコ	10月23日	8名
「ロボット×外観検査」～AI×光学ズーム搭載ビジョンシステムのご紹介～	(株)キーエンス	10月29日	7名
IoTセキュリティセミナー	サイエンスパーク(株)	11月13日	9名
協働ロボット・最新技術体験セミナー	ファナック(株)	11月27日	18名
合 計			127名

(8) 半導体人材育成事業

半導体関連企業技術者を養成する取り組みとして、これまでの「ひびきの半導体アカデミー」の内容を見直し、市域企業や高専等のニーズを反映した、半導体のものづくり全体像を学ぶ基礎講座等を5講座実施した。

講 座 名	開 催 日	受講者数
半導体活用基礎講座（高専専用）	6月7日	35名
パワーシステムマイコン制御講座	6月12日	4名
半導体活用基礎講座オンデマンドセミナー	8月19日～9月20日	20名
半導体技術者検定エレクトロニクス3級セミナー	10月12日	20名
半導体活用基礎講座オンデマンドセミナー	12月16日～1月27日	6名
合 計		85名

(9) エグゼクティブビジネススクールの運営

DX（デジタルトランスフォーメーション）、第4次産業革命が進む中で、デジタル技術を活用し、成長を目指す中小ものづくり企業の経営層向けに、エグゼクティブビジネススクール（主催：北九州工業高等専門学校、共催：早稲田大学大学院情報生産システム研究科・北九州市・（公財）北九州産業学術推進機構）を開催し、延べ47社55名が受講した。

デジタル技術による、生産性向上、業務革新、事業成長、技術継承、人材育成、国際基準への準拠等の様々な利点について理解を深め、自社の進むべき将来像を描けるようになってもらうための講座であり、特別講座を3回、本講座を5回実施した。

(10) 風力人材育成事業

北九州港湾区域をはじめ、全国的に洋上風力発電の推進が謳われている現状を踏まえ、ドイツ・プレーマーハーフェン大学の協力を得て、ヨーロッパで開催されている洋上風力経営学修士号講座（OWEMBA）の日本導入を目指し準備している。

令和7年1月には、ヨーロッパのOWEMBAチームの協力を得て、日本の学生及び風力関係の社会人を対象にOWEMBAを紹介するオンライン・コースを3日間に渡って開催した。

また、これまでの交流の成果を踏まえ、令和7年3月には、北九州市立大学と台湾の台北科技大学の間で協力協定が締結されており、今後、風力人材育成分野を中心に連携が進むことが期待されている。

2 学研都市の国際化の推進

「アジアの中核的研究拠点」としての学研都市の発展を目的に、学研都市内の大学に在籍する留学生を対象に、奨学金の給付、住宅費の助成、就職支援講座や日本語講座の提供を行うとともに、留学生支援活動を行う団体に対して、助成を行った。こうした留学環境の整備により、年々、留学生が増加している。

(1) 留学生支援事業(生活等)

① 留学生奨学金給付事業

優秀な留学生の集積を図るため、奨学金を給付した。

＊奨学金：12,200千円（給付人数〈延べ〉：41名）

※年間60万円/人、秋期入学は30万円

② 住宅費助成金交付事業

教育研究活動に専念するための生活支援として、各大学が提供する宿舍等に入居することができず、民間の賃貸住宅等に入居する留学生を対象として、家賃等の助成を行った。

＊助成額：10,438千円

③ 留学生交流事業補助

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人やボランティア団体が実施する留学生支援活動に対し助成を行った。

＊助成額：600千円

（内訳）特定非営利法人学研都市留学生支援ネットワーク：300千円、

学研ボランティアの会：300千円

(2) 留学生支援事業(教育等)

① 留学生就職支援プログラム事業

学研都市の3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、就活日本語講座、就職セミナー等の就職支援プログラムを実施した。令和6年度はオンラインと一部対面で実施した。

*受講生 24名(早稲田大学20名、北九州市立大学2名、九州工業大学2名)

*参考 令和5年度プログラム受講生22名の就職先

(株)メガチップス、ウエスタンデジタルテクノロジーズ(株)、
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、ローム(株)、美濃工業(株)(2)、
本田技研工業(株)(3)、(株)エクサウィザーズ、横河電機(株)、ルネサスエレクトロニクス(株)、
ソニーGMO(株)、楽天グループ(株)(2)、パナソニックインダストリー(株)、
日立ヴァンテラ(株)、(株)日立製作所、ハイマックス(株)、パーソナルクロステクノロジー(株)、
UBE三菱セメント(株)、アイシン精機(株)

② 語学教育センター運営事業

学研都市の留学生や外国人研究者の日本語習得支援のために日本語講座を実施した。

*日本語講座：春期：5クラス 秋期：5クラス (週2回)

講座：春期：初級1.2.3.4.、中級会話

秋期：初級1.2.3.4.、中級会話

受講者数：春期：66名 秋期54名

受講料：大学の在籍形態による。

③ インターンシップ事業

学研都市の留学生に北九州市内の企業を知ってもらうことを目的として、市内の企業3社を見学し、企業担当者と留学生で意見交換をした。

*訪問企業 ゼンリン(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、GMOインターネットグループ(株)

*参加者 26名(内訳 北九州市立大学4名、九州工業大学5名、早稲田大学17名
中国22名、バングラデシュ2名、韓国、台湾各1名)

(3) 海外大学等連携促進事業

交流協定を締結している台湾の新竹サイエンスパークや工業技術研究院等を訪問し、半導体分野を中心とした研究開発や人材育成における連携について意見交換を行った。

また、令和7年2月には、新竹サイエンスパーク管理局長が来訪し、半導体研究開発施設やロボット・DX推進センター等の視察を行った。

3 学研都市の効果的な運営

(1) 大学間連携促進事業

産学連携、大学間連携及び学術情報等に関する協議を行うため、学研都市の大学の代表者等によって構成されるキャンパス運営委員会を開催した。

(2) 学研都市 PR 事業

学研都市及びFAISについて様々な機会や手法を活用し、国内外への情報発信を行った。

①国内外研究者等の受け入れ

学研都市に来訪した多数の研究者や企業等に対し、学研都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介した。

*海外：19件、215名 *国内：152件、1,048名

②積極的な情報発信

FAIS 事業概要(アニュアルレポート)や学研都市紹介パンフレットの発行、市政記者等クラブ向けのプレスリリース(8件)、新聞等への広告掲載に加え、公式SNSの運用やSNS広告の発出、プレスリリース配信サイトを使った情報発信など、学研都市の認知度向上に取り組んだ。

その結果、テレビや新聞等で160件の報道があった。

*報道件数内訳：テレビ・インターネット等70件、新聞89件、雑誌等1件

③学研都市サイエンスカフェ

学研都市の研究者と市民が自由な雰囲気の中で気軽に交流しながら最新の科学情報に触れられる「サイエンスカフェ」を開催した。(北九州市立大学 長 弘基 准教授)

回	テーマ	開催日	参加者数
第28回	お湯で動くエンジンを作ってみよう ～形状記憶合金のふしぎ～	8月4日	33名

④コミュニティFM放送による情報発信

学研都市に本社スタジオがある Air Station Hibiki(株)を活用し、毎週木曜日の午後3時から4時まで、学研都市と地域を結ぶラジオ番組「学研都市へ行こう!」を放送した。

学研都市内の大学(院)・研究機関・企業などの研究者や学生などが、研究開発情報の紹介、セミナーやイベントの告知等を行い、ラジオを通じて情報発信した。 *放送回数：52回

⑤学研都市コンベンション開催助成金交付事業

学研都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めた。

*助成件数3件

(北九大：イルミネーション、九工大：トマトロボット競技会、早大：国際シンポジウム)

⑥ひびきの祭

地域の人々との交流の促進と学研都市の認知度の向上を図るため、「北九州市立大学大学祭(響嵐祭)」、地域住民主催の「ひびきの秋祭り」にあわせて「ひびきの祭」を開催した。

学研都市内の各大学のほか、産業医科大学やトヨタ自動車九州による体験型ブース出展もあり、約5,500人が参加した(開催日：令和6年11月10日(日))。

(3) 学術研究施設等管理運営事業

①学術研究都市施設の管理運営

学研都市の指定管理者として、学研都市内施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、利便性及び安全性向上に向けた取り組みを行った。

【管理を行った施設】

- ・産学連携センター(1号館) ・産学連携センター別館 ・共同研究開発センター(2号館)
- ・情報技術高度化センター(3号館) ・事業化支援センター(4号館)
- ・技術開発交流センター(5号館) ・環境エネルギーセンター ・クラブセンター
- ・学術情報センター ・会議場 ・体育館 ・運動場 ・テニスコート

【研究室の入居状況(令和7年3月末現在)】

入居施設	室数	入居室数	入居企業等の数
産学連携センター（1号館）	31	20	9
産学連携センター別館	8	2	2
共同研究開発センター（2号館）	7	4	4
情報技術高度化センター（3号館）	34	9	8
事業化支援センター（4号館）	56	48	32
技術開発交流センター（5号館）	49	35	12
合計	185	118	67

*企業等の数について、複数施設入居の場合は各々の施設で計上

②情報システム機能改善

学研都市内の情報通信ネットワークの効率的かつ効果的な運営を行うとともに、IT環境の変化に対応した環境構築を促進した。

区分	実施内容
情報通信関係	<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究都市情報通信基盤の運用・保守（安全・安定性確保） ・装置老朽化及びメーカー保守終了対応（安全・安定性確保） ・ファイルサーバ更新（データセンター移行） ・コアスイッチ、ISP 接続スイッチ更新 ・PROXY システム更新 ・図書 NW 利用認証更新 ・専門図書室 OPAC 検索端末更新 ・利用申請システム統合部門連携評価（安定性確保 R7 統合実施予定） ・来訪者及び業務用 Wi-Fi 拡充（機能向上） ・2号館・産学連携センター ・PBX バックアップ環境構築（安定性確保） ・貸出用 PC 導入（安全・安定性確保）※FAIS 主催の一般向け講座用等で利用 ・セキュリティ維持のためリカバリーソフト等導入し学情にて運用管理を開始 ・学習室利用者向け Wi-Fi（サービス向上） ・学術情報センター1階学習室で利用者向けフリーWi-Fi サービスを提供開始 ・共同視聴設備電源装置更新（安定性確保） ・学術情報センター1階モニタリングカメラ増設（安全性確保）
教育設備関係	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室パーティション設置（機能向上）

③図書館の機能及びサービス改善・向上

区分	実施内容
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒビキノシネマ開催（4月、6月、8月、10月、12月、2月） ・展示コーナーの市民利用（4件） ・講演会「なるほど！空想科学～マンガやアニメの世界を科学する！～」開催 ・「図書室でスカベンジャーハント」開催

一般図書室	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校学外授業による見学の受入 ・毎月の特集コーナー展示 ・図書・雑誌リサイクルフェアを開催 ・DVD上映会、おたのしみ会の開催 ・探しやすい配架の工夫（サービス向上） ・機能性ブラインドに取替（機能改善）
専門図書室	<ul style="list-style-type: none"> ・特集コーナーの展示 ・学生が読みたい本を自ら選ぶ「Web選書」を実施 ・英語論文の書き方セミナー開催（オンライン） ・新入生向け「スカベンジャーハント」実施 ・授業内でのガイダンスの実施（サービス向上） ・専門図書室の電子資料充実（データベース、電子書籍）

【図書館利用状況】＊（ ）内は令和5年度の実績

区分	開館日数	入室者(人)	貸出利用者(人)	貸出冊数(冊)	蔵書数(冊)
一般図書室	331 (336)	81,921 (77,478)	21,791 (22,760)	80,672 (86,442)	57,233 (57,293)
専門図書室	331 (335)	49,917 (41,264)	5,991 (3,403)	11,008 (6,630)	109,255 (108,941)
合計	-	131,838 (118,742)	27,782 (26,163)	91,680 (93,072)	166,488 (166,234)

④学術情報センターの機能向上

区分	実施内容
イベント	「スタジオ・コンテンツ制作室利用体験」を開催 (2024年6月～2025年3月の火・木曜日)
	「デジタルクリエイター教室（動画編）」を開催 小学5年生対象に、学校タブレットを使用した動画作成教室を、 学術情報センター遠隔講義室1にて、以下の内容で開催 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年9月26～27日 … ひびきの小学校（236名） ・2024年10月2日 … 光貞小学校（91名） また、事前に教員向けの教室を以下の内容で開催 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年7月19日 … ひびきの、光貞小学校合同（16名）
学習室の整備	図書室の利用環境改善のため、教育用設備としてサービス提供を終了した旧CAI室を「学習室」として再整備。安全面を考慮して防犯カメラも設置 <ul style="list-style-type: none"> ・学習室（旧CAI室1・2）座席数：30席
ひびきの道草	小学生向けに、地元企業製作によるITを活用した遊んで学べる装置を製作 学研都市の認知度アップと施設の利用促進を図るもの <ul style="list-style-type: none"> ・LEDライトスイッチシステム「ビット1号」

II 産学連携による技術力の強化及び新事業の創出、生産性向上等の取組

1 情報発信と連携の場の創出

(1) 産学連携推進事業

学研都市の研究者情報等の技術シーズや研究成果を積極的に発信するとともに、最新の技術動向の収集や国その他関係機関とのネットワーク強化を通じて、産学連携の基盤づくりを進めた。

①産学連携促進のための情報収集・発信

学研都市のポテンシャルを広くPRするため、様々な媒体により、研究者の情報（5機関、約180名）のPRを行った。

- ・「研究者情報」の改訂
パンフレット（日本語）2,000部、ホームページへの掲載（日本語・英語）

- ・「研究室最前線」による研究者インタビュー

学研都市の注目の研究者のインタビュー記事を、学研都市ホームページ及び研究者情報のサイトに掲載（年2回）

情報発信機能のPRとネットワーク拡大を目的に、メールマガジン「産学連携センターNews」を約6,000名に55回配信し、国等の公募事業や産学連携イベント情報などタイムリーな情報提供を行った。

②産学交流サロン

学研都市において産学連携の動きが次々と生まれる環境づくりを目的に、特定の技術テーマについて、産学官で自由にディスカッションする「産学交流サロン」（6回開催、延べ492名参加）を開催した。

回	テーマ・講座名	開催日	参加者数
第212回	「産業界で活躍する技術系人材に求められるものは」 ～第11回カーロボAI連携大学院交流会～	10月11日	65名
第213回	第64回北九州医工学会 「新たな研究シーズの探索に向けた医・歯・工の連携」	11月7日	32名
第214回	合同企画 第18回IPS海外連携シンポジウム (ISIPS2024)	11月8日	274名
第215回	北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業 「専門技術者育成カリキュラム」	11月11日	44名
第216回	第8回ゼオライトセミナー 第52回石油学会九州・沖縄支部講演会	1月15日	36名
第217回	人工知能(AI)を活用して社会課題の解決を目指す！ ～ひびきのAI社会実装研究会の取組紹介～	2月13日	41名

2 研究開発の支援と事業化の推進

(1) 研究開発プロジェクト支援事業

北九州市内の大学・企業等の研究開発力の向上とともに、北九州市における産業技術の高度化や新産業の創出及び産業振興に資する研究開発を支援した。

① シーズ創出・実用性検証事業

産業振興の促進に資する分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証する大学等研究機関の研究開発に対して助成するもの。

- ・補助額：一般枠、若手・チャレンジ枠共に 200 万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率 1／1

【補助実績】 15 件（若手・チャレンジ枠：3 件、一般枠：12 件）

採択テーマ名	申請大学等
CO2 資源化のための亜鉛ガス拡散電極の開発【若手】	九州工業大学
3D デジタル技術を基盤とする自動化手法を用いた高効率・高再現性で安全な体幹装具の設計および構造解析のワークフローの確立	九州工業大学
省計算資源実装が求められるエッジ AI のための仮想マルチリードアウトレザバー計算モデルの開発【若手】	九州工業大学
ビッグデータ新解析：言語モデルと展開図可視化の対話による知識発見システム	九州工業大学
持続可能な農業システムの構築を目指した新規バイオスティミュラント剤の開発	九州工業大学
有害金属の除去やレアメタルの回収が可能な金属配位子を有する含硫黄ポリマーの開発	九州工業大学
がんの早期診断をめざした電気学的 cell-free DNA の検出	九州工業大学
環境に優しいプロセスによるナノポーラス Ge の合成と蓄電素子への応用【若手】	九州工業大学
泥炭森林火災の消火技術を核としたカーボンクレジット市場への参画に関する調査	北九州市立大学
テーラーメイド可能な高精度脳血管管腔モデルの開発と市場普及に向けた実用性検証	産業医科大学
新規な固体電解質と負極材料の開発及び次世代全固体ナトリウムイオン電池への応用	九州工業大学
3D プリンティング技術を可能とする改質木質バイオマス燃焼灰を使用したカーボンニュートラルコンクリートの開発	北九州市立大学
ロボットの動作をコピペするシステムの開発	北九州市立大学
自然地形を凌駕する多肢型エクストリームクライミングロボットの開発	九州工業大学
省エネ純水製造を目指した孔拡散分離膜の開発	北九州高専

※【若手】：若手・チャレンジ枠

②実用化研究開発事業

産業振興の促進に資する分野に関し、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して助成するもの。

- ・補助額：500万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率： 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】 3件

採択テーマ名	申請企業等
細胞用ナノ注射器を用いた安全性の高い高効率ゲノム編集技術の開発	ハインツテック(株)
自動運転バス事業サービス向上のための論理知識型 AI 活用によりバス熟練運転手の規範的判断を組み込んだ安全・安心・社会信頼を確保する高付加価値地図製品の開発	アイサンテクノロジー(株)
低炭素フェライト系ステンレス鋳造品の組織制御技術の開発検証、及び自動車排気系部品への実用化	戸畑鉄工(株)

③未来産業イノベーション創出事業

半導体、自動車、宇宙等今後成長が見込まれる重点分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して助成するもの。

- ・補助額：単独300万円以内／年（単年度補助）、連携1000万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率：大学等 1/1 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】 2件

採択テーマ名	申請企業等
動植物細胞共生培養によるエネルギー循環型食糧生産法の確立	北九州市立大学
地域課題である“竹”の循環利用に向けた次世代難燃性素材の創製	九州工業大学

④衛星データ利活用実証・新技術開発事業、宇宙関連機器新技術開発事業

成長が見込まれる宇宙関連分野の衛星データ（観測・測定・通信の各データ）の利活用モデルの実証や新たな技術開発及び宇宙関連機器等に関する新技術開発に対して助成するもの。

- ・補助額：一般200万円以内／年（単年度補助）、大規模500万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率：大学等 1/1 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】 5件

採択テーマ名	申請企業等
超小型衛星の安価で高精度な姿勢決定実現に向けた宇宙用超小型デジタルフラックスゲート磁気センサの開発【機器】【大規模】	九州工業大学
メタマテリアル技術を応用した CubeSat 向け超小型高性能アンテナの開発の初期検討【機器】【大規模】	九州工業大学
高精度・高耐性衛星観測のための AI 駆動異常検知技術の確立【データ】【大規模】	北九州市立大学
宇宙関連機器搭載ソフトウェアとサイバー・フィジカル・システム・シミュレーションと耐宇宙線理論回路の要素技術開発【機器】【大規模】	北九州市立大学

A-SOFT ハイブリットロケット技術の研究開発 —酸素の伝熱現象の解明および熱伝達式の確立—【機器】【大規模】	九州工業大学
---	--------

※【機器】：宇宙関連機器、【データ】：衛星データ、【大規模】：大規模枠

(2) 旭興産グループ研究支援事業

旭興産グループの支援を得て、北九州市から未来を創造するテクノロジーを生み出すため、新しい時代に予見される課題の解決につながるようなテクノロジーに関する研究に対して助成する。対象は北九州市内の大学、大学院及び高等専門学校。

①若手研究者ステップアップ支援

若手研究者（博士の学位取得後8年未満又は39歳以下の者）が行う研究開発で、斬新、独創的かつ挑戦的で将来の発展が見込まれるものに対して助成する。

<Aタイプ> 補助額：1000万円以内／3年間 補助率：1／1

<Bタイプ> 補助額：500万円以内／3年間 補助率：1／1

※補助期間は申請の翌年度から最長3年間

【補助実績】6件

採択テーマ名	申請大学等
ARM CPU と Apple Silicon 向け機械学習・画像処理の高速化・並列化・コード最適化とプログラムコードに含まれる不具合・脆弱性の検出と排除に関する研究開発	北九州市立大学
天然歯と同様の機能を持つ次世代人工歯の開発	九州歯科大学
温泉バイオエンジニアリングを用いた生物学的メタネーション	北九州市立大学
細菌と歯科の革新的技術：歯および歯科材料の“自己治癒”の実現	九州歯科大学
ハロゲン化ペロブスカイト熱電変換材料を用いた薄膜型高性能フレキシブル熱電変換素子の開発	九州工業大学
機電一体型不平衡電圧補償器付誘導機の主回路方式およびトルクリプルモニタリングシステムの研究	九州工業大学

(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業

国等からの研究開発・人材育成資金を活用した産学共同研究プロジェクトを運営実施した。令和6年度は、市内の企業等と共同プロジェクトを進め、新技術・新製品の開発を行った。

所管	事業名称	事業期間	参画大学	公的研究機関	参画企業数
文科省 (文化庁)	東田回遊促進グリーンスローモビリティ自動運転事業実証実験 (北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業)	令和6年度	1	1	1
国交省	北九州空港～JR朽網駅 自動運転バス実証実験 (地域公共交通確保維持改善事業(自動運転社会実証推進事業))	令和6年度	1	1	11

また、市内の企業や大学等が外部資金を獲得するための支援を行った。

所管	事業名称	申請主体	研究テーマ等	事業費 (千円)
中小企業 庁	大規模成長投資補助金	市内企業等	支援件数：3件 採択件数：0件	—
経産省	Go-Tech 事業(成長型中小企業等研究開発支援事業)	市内企業等	支援件数：1件 採択件数：0件	—

(4) 産学連携推進事業(研究会運営等)

新産業創出の基盤となる先端技術分野、最新のものづくり加工技術分野等について、市場予測や技術開発動向等の基盤情報に関する調査等を行うとともに、具体的なプロジェクト創出を目指した研究会を運営した。

主な研究会名	参画機関
北九州革新的価値創造研究会(カチケン)	大学等5機関、企業17社、 公的機関3機関
ひびきのA1社会実装研究会	大学等4機関、企業2社、公的機関3機関
3Dものづくり技術研究会	大学等3機関、企業37社、公的機関4機関
太陽光発電と耐荷重計算等(PV耐荷重等)研究会	大学等2機関、企業1社、公的機関2機関

(5) 人工知能研究の拠点化推進事業

AI技術を活用したスマートな街づくり、社会システムづくりを目指し、「ひびきのAI社会実装研究会」を中心に、AI技術の社会実装の研究開発を推進するとともに、AI人材の育成に取り組んだ。

① 研究開発の推進

AIの社会実装に向けた企業のニーズと、研究会構成委員の技術シーズのコーディネートを行い、人の理解しやすさの向上、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術(スパースモデリング)を用いた電力需要の予測システムの確立・自動化などのテーマについて研究開発を推進したほか、実時間処理や低電力消費を実現するAI向けのハードウェアの開発推進をサポートし、関連の一般向けセミナーも開催した。

②AI人材育成事業(再掲)

4 ページ I 1 (5) に掲載

(6) 「学研スタートアップ支援及び HIBIKINO ODORIVA の運営」について

学研都市に関わる人たちが互いに交流し共創していくコミュニケーションスペース

「HIBIKINO ODORIVA」を、令和5年10月13日に開所し、①グローバルなコミュニティの形成、②分野を超えた学びと研究の促進、③チャレンジ精神やリーダーシップの醸成をコンセプトに、主催イベント等のほか、北九州市や大学等と連携し、セミナーやイベント等を開催した。

① 学研スタートアップ支援

スタートアップ創出件数は2件(内1件は九工大大学院生による起業)となった。

また、スタートアップに関連した相談対応、支援、各種情報提供件数は35件となった。

② HIBIKINO ODORIVA の運営

【令和6年度の会員登録数、利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
会員登録数(名) (前年度実績)	93	41	31	36	18	10	39 (89)	36 (32)	33 (16)	33 (8)	28 (19)	23 (16)	421 (180)
利用者数(名) (前年度実績)	508	653	594	725	375	306	779 (355)	728 (488)	717 (526)	784 (394)	410 (313)	593 (236)	7,172 (2,312)

【主なイベント】				
開催日	イベント名		主催者	参加者
4月11日 他	留学ゆるトーク 計6回開催		FAIS	68名(延)
8月23日 他	ODORIVA酒場 計3回開催		FAIS	108名(延)
1月22日	The Partyz @学研都市		FAIS	52名
2月26日	インパクト投資セミナー		FAIS	53名

(7) 学研都市を中心とした GX(グリーントランスフォーメーション)の推進

「北九州 GX 推進コンソーシアム」

カーボンニュートラルへの変革を成長の好機ととらえ、「北九州 GX 推進コンソーシアム」を令和5年12月に創設した。

この「北九州 GX 推進コンソーシアム」の枠組みを活用して、北九州学術研究都市等での研究開発など、北九州のポテンシャルを活かした産業集積や、地域企業の成長、新産業を創出することで、「稼げるまち」北九州市の実現を目指し、4つの視点(①最先端の研究開発・社会実装、②GX関連産業の集積、③GX人材の育成、④地域企業のカーボンニュートラルやグリーン成長に向けた支援)で、以下の取組を進めた。

会員数は、令和7年3月末時点で300社・者(個人含む)となっている。

①総会「北九州 GX DAY」開催

総会は「一般社団法人科学と金融による未来創造イニシアティブ(FDSF)」が毎年実施している「FDSF Japan Tour」の北九州市での開催と合同で実施。(354名が参加)

<総会概要>

日時：令和6年11月26日（火）9：30～16：00

場所：リーガロイヤルホテル小倉

開催方法：北九州会場、東京会場及びオンラインでのハイブリット開催

テーマ：「GXと金融」

<プログラム>

①FDSF Japan Tour セッション

②北九州 GX 推進コンソーシアム総会

③FDSF Japan Tour と北九州 GX 推進コンソーシアムの合同セッション

<主な登壇者>

北九州市長 武内和久氏（コンソーシアム会長）

FDSF 小野塚恵美氏（金融庁サステブルファイナンス有識者会議メンバー）、

GX推進機構 高田英樹氏（前：金融庁総合政策局 総合政策課長）、

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 吉高まり氏 等

②共創の場の創設

部会名		開催セミナー等（参加人数）
次世代燃料・カーボンリサイクル部会		・キックオフシンポジウム（135名） ・ワークショップ（35名）
未来共創部会	宇宙	・セミナー（80名）
	学研都市脱炭素化	・関係者会合2回開催（のべ39名）
	建築物 （木造建築、ZEB、ウェルネス）	・セミナー（63名） ・シンポジウム（81名）
	泥炭火災カーボンクレジット	・研究会2回開催（のべ23名）
自動車部会		・セミナー（43名） ・講演会（71名） ・ワークショップ3回開催（6社）
半導体部会		・セミナー（118名）

③GX推進補助金

北九州市におけるGXに資する新ビジネスの創出及び官民GX投資を促進することを目的として、GX推進補助事業を創設・実施。

- ・補助額：500万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率：1/2
- ・補助実績：3件

株式会社西日本ガラスリサイクルセンター、コンダクト株式会社、小倉セメント製品工業株式会社

④ワンストップ相談窓口・専門家派遣及び情報発信

ア ワンストップ相談窓口実績>

- ・登録専門家数：16社（R7.3月末現在）
- ・相談申込件数：15件
- ・専門家派遣回数：33回

イ 専用 WEB サイト実績

・ページビュー数（計約 16,000PV、11 月を除く月平均約 4,700PV※）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3,954	5,340	3,677	5,118	5,092	4,118	5,647	1.1万	4,454	4,792	4,883	4,500

※11 月は、総会（北九州 GXDAY）開催につき閲覧数が突出している。

⑤GX 意識の啓発・醸成活動、広報・周知活動

ア GX 関連補助金等支援制度セミナー（ウェビナーで 51 名参加）

イ GX 推進企業取材・コンソーシアムホームページへの掲載

取材企業：2 社

株式会社正興電機製作所、小倉セメント製品工業株式会社

ウ 展示会出展

展示会・イベント	開催日	ブース 来場者数
・課題解決 EXPO（エコテクノ 2024） 主催：北九州市、（公財）北九州観光コンベンション協会 開催場所：西日本総合展示場	7月3日～ 7月5日	127 名
・令和 6 年度地域脱炭素の実現に向けた地方公共団体と企業 とのマッチングイベント 共催：九州地方環境事務所、経済産業省九州経済産業局、 一般社団法人九州経済連合会 開催場所：サロンパスアリーナ（佐賀県鳥栖市）	11 月 15 日	33 名
・エネルギーイノベーション総合展 （再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム 2025） 主催：再生可能エネルギー協議会 開催場所：東京ビックサイト ※地元 GX 推進企業と共同出展・セミナー開催（株式会社ビート トルマネージメント、小倉セメント製品工業株式会社）	1 月 29 日 ～1 月 31 日	423 名

⑥GXエグゼクティブ・ビジネススクール実施

開講日：令和 6 年 10 月 11 日～11 月 15 日（全 6 回）

受講者数：10 社 16 名

カリキュラム：

第 1 回 GX を捉える

第 2 回 自社の立ち位置を明確にする

第 3 回 自社 GHG 排出量を知る・測る・減らす

第 4 回 自社の製品・サービスの GX 化

第 5 回 GX を実現するための手段

第 6 回 GX 実現のためのアクションプラン

⑦CO₂排出量可視化ツールの無償提供（R7.3 現在累計 32 社に提供）

(8) 次世代自動車技術拠点推進事業

①カーエレクトロニクス拠点推進事業

「パーツネット北九州」及び「北九州自動運転推進ネットワーク」の事務局運営を通じて、セミナーや勉強会、視察会等を実施し、産学連携、会員企業同士の連携を強化することにより、部品の軽量化等の脱炭素社会の実現に資する環境技術や自動運転関連技術など、学研都市の研究シーズを活かした特色のある自動車関連技術の研究開発を支援した。(次世代自動車勉強会で実績掲載)

また、EV化等の自動車産業を取り巻く環境の変化に対応するため、自動車メーカーOB等のアドバイザーを企業に派遣し、現場改善やTQM活動の実践を通してEV化に向けた環境整備や技術の磨き上げなど、各企業の状況に応じた伴走支援を行うほか、令和6年度、「クルマの未来館ひびきの」をリニューアルして新たにEV車を1台まるごと分解展示し、マッチングコーディネータによる実物を目の前にした部品や技術の解説等を通して、地元企業のEV分野など販路の新規開拓支援等に取り組んだ。

こうした取組みを通して、カーエレクトロニクスを中心とした自動車技術の拠点化を推進した。

【現場派遣】

派遣企業名	指導期間	指導回数	派遣AD
株AQUA	令和6年1月～8月	11回 (令和6年度)	富永AD (トヨタ九州OB)

(9) ロボット開発等支援事業

①地方大学・地域産業創生交付金事業

北九州市、九州工業大学、安川電機と連携し「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」において、キラリと光る大学づくりと地域産業の活性化を目指してプロジェクトの推進・運営を行った。具体的には大学改革、研究開発、導入支援の各ワーキンググループに関与し、特にFAISとしては、大学が行う研究開発を実践的見地からの支援を行うとともに、合計164件(市内156件、市外8件)の企業を訪問し、生産性向上につながる導入支援活動に注力した。

②ロボット関連装置等の研究開発支援

北九州ロボットフォーラム(Ⅱ2(8)④で後述)の活動を通して、市内の大学や企業等で進められている様々な研究開発プロジェクトに対し、情報提供・成果の情報発信等、多面的に研究開発支援を行った。

③産業用ロボット導入支援事業

北九州市ロボット・DX推進センター(Ⅱ3(1)で詳述)において、個々の生産現場に対応したロボットシステムの試作・開発を支援する他、中小ものづくり企業に対し、産業用ロボットの導入支援、導入効果の事前検証(Feasibility Study)の2つの公募事業を行った。

【FAIS実施の補助金活用】

産業用ロボット導入支援補助金(4件)
株アイデア、(有)北原製作所、株第一製作所、株戸畑ターレット
産業用ロボット等の導入前検証事業(FS事業)(3件)
磯部鉄工株、九州鉄道機器製造株、福栄工業株

④「北九州ロボットフォーラム」(研究会)の運営

- ・会員数 51 社、12 大学、14 機関・団体（発足時 45 団体・個人）
- ・総会の開催 令和 6 年 7 月 3 日 令和 6 年総会

(10) 半導体・エレクトロニクス技術推進事業

①新エレクトロニクス産業創出事業

北九州市域の半導体関連産業の振興のため、R4 年 7 月に設立した「北九州半導体ネットワーク」の取組みとして、第 4 回北九州半導体ネットワーク総会の開催、第 [1 回]九州半導体産業展、SW Test Asia2024、ゆめみらいワーク 2024 などの展示会への出展、「ひびきのテスト研究会」の開催、3 号館への新たな半導体テストを導入・運用により利用者への利便性の向上、学研都市 3 大学で半導体関連の研究を行っている研究者のシーズ集をまとめた「北九州学術研究都市 半導体関連大学研究シーズ集」を発行し、産学連携の促進を図った。また、半導体分野で設計人材不足が指摘されている中、北九州市立大と日本 IBM が共同で開発した「システムオンチップ (SoC) 設計セミナー」の開催を北九州市とともに支援し、設計人材の育成を推進した。

②「GX を支える半導体セミナー」の開催

グリーン社会実現のための重要な課題の一つが、電力を使うあらゆる機器における消費電力と電力効率の向上であるが、そのシステムの基本要素である半導体について、半導体設計の視点及び応用分野をテーマにセミナーを開催した。(8月27日 受講者 141 名)

(11) 北九州技術移転機関 (北九州 TLO) 運営事業

大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業へ技術移転を図った。

令和 6 年度末現在			
累積特許出願件数	433 件	累積技術移転成約件数	239 件

* 知的クラスター創成事業の成果で F A I S が特許出願した件数を含む

3 ロボット・DX の一体的推進による生産性向上の支援

(1) 北九州市ロボット・DX 推進センター運営事業

令和 4 年度に北九州市が学研都市に北九州市ロボット・DX 推進センターを設置し、FAIS が運営を受託した。当センターでは FAIS ロボット部門と情報部門が一体となり、ワンストップで中小企業の生産性向上を支援する体制とし、ロボット・IoT・デジタル化などの先端技術の導入支援、相談対応やアドバイス、事例紹介、人材育成等の事業を実施した。

さらに地域企業、高等教育機関、金融機関、Sier と連携し、地域産業の高度化を促進した。

① ワンストップ相談窓口の運営

令和 3 年度まで地域企業のデジタル化を支援してきた「北九州市デジタル化サポートセンター」を令和 4 年度から「ワンストップ相談窓口」に発展させ、ロボット導入、DX 推進等にワンストップで対応する体制を整えた。DX に関する相談に対して幅広い分野で対応するため、外部の登録専門家を 56 社 88 名に拡充した。

また、制度の利用者がより相談しやすくなるよう、「北九州市デジタル相談窓口」という事業愛称を設定した。

令和6年度 相談受付数 106件 (DX 91件、ロボット0件、5S 6件、他9件)
 コーディネータ派遣 159件、専門家派遣 377件

	累計値	4月末 時点	5月末 時点	6月末 時点	7月末 時点	8月末 時点	9月末 時点	10月末 時点	11月末 時点	12月末 時点	1月末 時点	2月末 時点	3月末 時点	
昨 年 度 比	相談受付件数(累計)※相談のみ含む													
	令和5年度		6	17	27	49	63	71	76	86	92	96	102	111
	令和6年度		8	17	29	42	52	60	70	84	88	91	98	106
	相談受付件数(累計)※相談のみ含まず													
	令和5年度		5	12	18	27	38	44	47	56	62	66	72	81
	令和6年度		6	14	25	35	44	50	57	69	72	75	82	89
	コーディネータ派遣													
	令和5年度		10	20	29	42	51	61	72	87	96	102	110	122
	令和6年度		13	24	43	59	76	85	99	117	126	137	149	159
	専門家派遣													
	令和5年度		12	35	59	91	119	138	166	189	212	222	244	268
	令和6年度		16	47	78	118	143	176	217	252	304	330	358	377

②集い・つながりの場

集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たすため、外部と連携したセミナーやイベント等を開催して交流を促進や機運醸成を図った。

セミナー・イベント	開催日	受講者数
西日本 DX 推進フェア2024 令和5年度DX推進補助金活用事例紹介 主催：北九州 DX 推進プラットフォーム	7月4日	49名
西日本 DX 推進フェア ブースセッション トークセッション 主催：北九州市 DX 推進プラットフォーム テーマ：業界別デジタル化・DX事例紹介（建設業・製造業・不動産業）、アイドルと学ぶ「DXって何？」	7月5日	227名
北九州市 DX 推進フォーラム 主催：北九州市 DX 推進プラットフォーム 基調講演：(株)INDUSTRIAL-X 代表取締役 八子 知礼 氏 パネルディスカッション：北九州 DX モデル企業 (株)西原商事ホールディングス、松本工業(株)、(株)戸畑ターレット工作所	7月4日	93名
合 計		369名

(2) ロボット・IoT・AI 等を活用した生産性向上支援（現場技術者向けスクール）事業（再掲）

7ページ I 1(6)に記載

(3) 市内企業の生産性向上のための提携セミナーの運営（再掲）

7ページ I 1(7)に記載

(4) 産業用ロボット導入支援事業（再掲）

22ページ II 2(9)③に記載

(5) エグゼクティブビジネススクールの運営（再掲）

9ページ I 1（9）に記載

(6) DX 推進補助金事業

令和3年度までの北九州市の「中小企業 DX 推進成長支援モデル事業補助金」と、FAIS の「デジタル技術を活用した新ビジネス創出支援補助金」を統合し、令和4年度からはFAIS の「DX 推進補助金」として実施している。

令和6年度 DX 推進補助金は、昨年度までの補助金の枠を見直し、中期経営計画等に基づいて計画的に生産性向上、事業変革に取り組む企業への補助金として「計画策定枠」「生産性向上・付加価値創出枠」「事業変革枠」の3種類の補助金枠を設け、計23件を支援した。

補助金の種類	交付上限	補助率	支援した件数
計画策定枠	200万円	2/3	6件
生産性向上 ・付加価値創出枠	200万円	2/3	14件
事業変革枠	500万円	2/3	3件

(7) DX 推進事業

北九州市ロボット・DX 推進センターとして、地域のDXを推進するため、ワンストップ相談窓口の運営や、北九州市DX 推進プラットフォームの運営等を行った。

①ワンストップ相談窓口の運営（再掲）

19ページII 3(1)①に記載

②北九州市DX 推進プラットフォームの運営

DX 推進を希望する市内企業（ユーズ企業）とDX をサポートする企業（サポート企業）で構成される北九州市DX 推進プラットフォームの運営を行った。(株)YE DIGITAL が開発し北九州市に無償提供した北九州DX 推進システムを運用し、北九州DX 推進プラットフォームの活動を促進した。登録会員数は令和5年度と比較して大幅に増加した。

北九州市DX 推進プラットフォームの利用促進、会員間の交流を図るため、北九州市DX 推進フォーラムの開催や、DX 推進フェアでのブース出展、イベント開催等を行った。

○北九州市DX 推進プラットフォーム登録企業数

	DX 推進希望企業	DX 推進サポート企業	合計
令和4年度末	242社	164社	406社
令和5年度末	297社	203社	500社
令和6年度末	349社	254社	603社

○北九州市DX 推進フォーラムの開催

北九州市産業経済局次世代産業推進課及び公益財団法人北九州観光コンベンション協会との共催により、課題解決 Expo2024 内で西日本DX 推進フェアを開催し、基調講演・DX トークセッション・北九州市DX 推進フォーラムを実施した。

【会期】令和6年7月3日（水）～7月5日（金）

【会場】西日本総合展示場

【出展】56社 88小間

【来場】17,224人（課題解決 Expo2024 全体）

プログラム	日時	講師／登壇者	参加人数
DX トークセッション 令和5年度DX推進 補助金活用事業紹介	7/4 10:30-12:00	平川産業(株)、ワイルド化成(株)、 (有)ゼムケンサービス	31人 (18人)
北九州市DX推進 フォーラム	7/4 14:00-17:00	(株)INDUSTRIAL-X、(株)西原商 事ホールディング、松本工業 (株)、(株)戸畑ターレット工作所、 FAIS、北九州市立大学	93人
DX トークセッション 業界別デジタル化・DX 事例紹介<建設業>	7/5 10:30-11:30	ハゼモト建設(株)、日本ソフト技 研(株)、(株)タイズ	27人 (20人)
DX トークセッション アイドルと学ぶ「DXっ て何？」	7/5 13:00-14:00	アイドルグループ「LinQ」 高木悠未さん、海月らなさん	36人 (23人)
DX トークセッション 業界別デジタル化・DX 事例紹介<製造業>	7/5 14:30-15:30	(株)アイム製作所、(株)ハピクロ、 (株)戸畑ターレット工作所	30人 (64人)
DX トークセッション 業界別デジタル化・DX 事例紹介<不動産業>	7/5 15:30-16:30	(株)不動産中央情報センター、 (株)タイズ	16人 (11人)

※括弧内はオンライン参加人数

③事業相談、新サービス創出支援

潜在的な地域課題（ニーズ）の発掘や地域企業等が保有する技術スキル（シーズ）情報の収集などのため、様々な機会を通じて事業相談の持ち込みを呼びかけたところ、30件の持ち込みがあった。

持ち込まれた案件については、個別にヒアリングを実施し、必要な支援等を行った。

【事業相談の内訳】

新規事業 立上	補助金 申請支援	販路拡大 支援	イベント 関連	技術紹介	マッチング 支援	合計
4件	1件	3件	4件	6件	12件	30件

④広報・周知活動

地域内中小企業がDX推進に取り組むためのきっかけづくりとして、ワンストップ相談窓口の紹介チラシを刷新し、令和6年度から実施した地域DX共創事業の活動内容をまとめた冊子を作成した。

また、視察対応や西日本DX推進フェア等のイベントにおいて、センターの取り組みについて説明を行うなど、認知度の向上に努めた。

⑤地域情報産業の成長支援事業

北九州情報サービス産業振興協会（KIP）の事務局を担い、北九州市内の情報サービス産業の振興及び産官学のコンソーシアムによる情報通信関連の人材・産業の育成支援を行った。

その他、（一社）九州テレコム振興センター（KIAI）等、ICT関連団体との連携を行いその活動を支援した。

(8) 生産性向上リーディングモデル創出事業

① 生産性向上リーディングモデルの創出

IoTによる中小企業の実業性向上をテーマに、北九州地域の中小企業（製造業含む）の業務の改善を促進し、売上増加、雇用拡大を通じた本市経済の活性化につなげるための活動を行った。特に、各社の生産性向上に対する意識の向上を狙い、先導できるプロジェクト（リーディングプロジェクト）を共同実証方式で実施した。また、開発したセンサー・システムを他企業に水平展開することで、多面的にDXを推進している。

さらに、製造業で培ったノウハウを生かし、令和4年度より、新たな産業への展開として、農業分野のデジタル化推進に取り込んでいる。具体的には、小倉南区の農家をモデルとして、生育データの収集と蓄積・情報解析を通して、生産性の向上を目指す取り組みを行い、生産効率20%アップの実証結果が得られた。

実施中のプロジェクトについては下表のように継続実施16件、令和6年度は完了2件、新規計画1件となった。

	会社名（業種）	目的	実施内容
継続 実施 ・ 経過 観 測	(株)戸畑ターレット 工作所 (非鉄部品製造)	工程進捗を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。	センサー情報から進捗をデータベースに保存、即時グラフで見える化し改善。現場カメラ情報で問題が起きた工程を解決する。
	日本鉄塔工業(株) (鋼構造物の製造)	工程進捗を把握し能力アップを狙う。	センサー技術を応用し、仕掛部材の現場位置を、工場マップに表示し進捗度を把握する。
	吉川工業ファインテック(株) (プレス加工業)	工場稼働率を把握し計画の精度向上を図る。	生産計画情報とプレス機からのセンシング情報を突合し、各プレス機の稼働率と工程、進捗度を見える化する。
	(株)山本工作所 (ドラム缶製造)	プレス機故障を予兆段階で把握し停止防止を図る。	プレス機が発する音を、独自開発した集音機にてデジタル化し、異音を検知する。
	ミラ・オーイー・システム(株) (ソフトウェア開発)	データセンタ UPS 内蓄電池の法定検査の省力化を図る。	センサーで取得した内部抵抗値を解析し、予防保守を可能とする。
	溝上酒造(株) (醸造業)	定期的な温度管理を自動化し、省力化する。	仕込み工程での温度管理をセンサーにより自動化し、遠隔管理を可能とする。
	イワキ工業(株) (特殊ねじ製造)	現在制御盤・制御装置の製造	QRコードを読むため、スマホを作業員に配り、すべてQRコードにて日報入力・工数把握を可能とする。
	石川金属工業(株) (自動車部品製造)	蒸着メッキで使用する治具台車の利用回数を自動カウントし、メンテナンス時期を把握したい。	各台車および蒸着機入口に磁スイッチを取り付け、台車が蒸着機に入る回数をカウントしデータ化する。
	和田合金(株) (銅合金鋳物鋳造及び機械加工)	加工・工作機械（旋盤）の、実稼働率を把握することで、効率化によるコスト減と負荷の低減を図りたい。	工作機械の実稼働時間（ワークと刃が当たっている時間）を計ることで、工場での稼働率・機械使用率をリアルに把握する。

	(株)勝山工作所 (金属機械加工製造) * 第二の課題の改善を並行して実施	金属加工機の実稼働状況を知ること、リードタイム計測・設備稼働率向上による生産性UPを図りたい。	FAIS が提供する、生産進捗見える化システム (HiBiKit) を導入し、パトランプ信号の実稼働状況と製番毎の計画値との差異をガントチャートで見える化する。
	(株) KOTANI (水回り手摺製造)	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。	FAIS が提供する、生産進捗見える化システム (HiBiKit) を導入し、工程別の加工装置の稼働状況を品番別に蓄積し見える化する。このデータをもとに改善活動実施。
	石川金属工業 (株) (自動車部品製造) * 第二の課題の改善を並行して実施	自動車部品のメッキ工程で使用する、吊手金具の利用回数を自動カウントし、交換・メンテ時期を把握したい。	自動メッキラインに固定したバーコードリーダーに、通過する吊手に張り付けたコードを読み取らせ、吊手がメッキ液に入る回数をカウント、閾値越えでアラームは発行。
	光洋金属工業 (電磁鋼板加工)	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。	工程別の加工装置の稼働状況を品番別に蓄積し見える化する。このデータをもとに改善活動実施。
	吉川工業ファインテック(株) (第二の課題の改善)	QR コードを活用した生産情報一括管理の実現	製品管理効率化および製品出荷台数の確認作業効率化 各工程で QR コードを読み込むことで、出荷品の管理工数削減。
	(株) アイム製作所 (制御盤・制御装置の製造)	社員の工程情報を電子化することで個人スケジュール、部門工程、受注工程、工程管理情報の一元化を実現する。	日報入力を効率化し、工数把握を可能とするため、間接部門を含め、全工程で PIYOT を導入。さらに RPA にて、既存システムと連携
	吉川工業ファインテック(株)	AI 技術を応用した稼働計画シミュレーション	金型・稼働状況・歩留まり傾向の機器の事前保全。 新工場稼働に向けた、加工機稼働状況のシミュレーターの実現。
令和6年度完了	和田合金 (株)	人的実加工時間を見える化し、コスト減と負荷の低減に役立てたい。	加工機械 (旋盤) の刃とワークが当たっている時間を熱対電センサーにより取得し見える化することで、人の稼働率・機械使用率をリアルに把握する。
	【農業 DX】 (株) 桃源舎 〈実証農家拡大中〉	最新の IT 技術を応用することにより、先進的な都市型農業の実現 (農業 DX) を目指す。	遠隔地の農場に各種センサーを設置し、育成環境や生育状況を遠隔地からリアルタイムで把握できるようにし、的確な作業判断を可能とする。
新規計画	(株) 不動工業 企画・提案実施中	出荷品の個数チェックをミスなく効率的に実施し、積み残しや、出荷品の検索の手間を削減したい。	出荷品に RFID タグを取り付け、出荷ゲートを通過時に、リーダーにより、確実に出荷数を把握。ミス防止と作業短縮を可能にする。 安価なリーダー開発の共同研究提案中

② 現場における課題解決のための提案と専門家派遣

ロボット・DX推進センターおよび中小企業支援センターが連携して、北九州市内の事業者を訪問し、現場の課題とその要因を分析するとともに、その解決方法を提案した。また、軽易な案件については、専門家を派遣し現場で改善アドバイスを行った。

③ IoT 実践研究会の活動

「IoT 実践研究会」は、令和元年度にリーディング企業自らが発案者となり、IoT を実践する企業間の情報を共有し、その成果を他の市内中小企業に展開することを目的として発足した。各社の現場訪問、課題の抽出と改善方法やノウハウの共有を行うなど発足当初から自主活動を継続しており、FAIS では会員間の情報連絡などの事務局活動の支援を行っている。

(9) 北九州 Sler ネットワーク構築事業

経済産業省「地域企業イノベーション支援事業」を活用して平成 30 年度に設立された北九州システムインテグレートネットワーク協議会の活動を強化し、事例研究やデモロボットの共同制作等を通してネットワーク活動を支援した。

令和 7 年 3 月末現在で、19 社が参加しており、定例会議の開催や会員企業の工場見学、ロボット産業マッチングフェアへの出展、および地元企業へ自動化に向けた提案などの活動を行った。

また、九州経済産業局の主催で「食料品・飲料製造業向けロボット導入セミナー@鹿児島」に登壇し、ロボット導入に関心のある地元企業に、当ネットワークの PR と会員企業の取組事例・シーズ紹介をすることで自動化の重要性をアピールする活動を行なった。

(10) 東田オープンラボによる新ビジネス創出

国立研究開発法人情報通信研究機構（略称 NICT）との連携プロジェクト

NICT の総合テストベッド研究開発推進センターと連携し、皿倉山展望台に高精細カメラの設置準備を進め、実証フィールド提供支援を継続するとともに、北九州市環境ミュージアムに山頂カメラからの映像配信端末の設置を働きかけ、環境学習に活かすなど地域での有効活用を並行して進めた。（令和 7 年度初頭設置完了）

(11) 地域 DX 共創事業

地域 DX（デジタル技術を活用した新たな地域経済づくり）を推進するためには、市や FAIS による個別企業支援（相談窓口や補助金等）の軸とは別に、各企業や大学・地域団体等が連携してプロジェクトを共創していく軸を構築する必要がある。

このため、主に北九州市 DX 推進プラットフォームの会員を中心とした共創プログラムを実施した。

具体的には、北九州 DX ツアー（先進的に DX へ取り組む企業への訪問）を通じ、デジタル化・DX 推進に意欲ある企業の発掘。これらの企業を中心にデジタル化・DX に向けた課題整理のワークショップを実施したうえで、共創により課題解決に取り組む団体に対する助成制度を設立し、5 団体を採択。さらに、採択団体の活動周知を兼ねながら、共創事例を紹介することで更なる参加企業の拡がりを目指したセミナーを実施した。

これらの活動の結果、令和 6 年度では新たに 3 団体が設立され、地域内での主体的なデジタル化・DX 推進活動が広がった。また、セミナー等を通じて既存団体へ新たな参加者が加わることで団体活動が拡充。団体内での活動を通じて、会員同士が連携する新規ビジネスも創出された。

この他にも北九州 DX ツアー参加企業内での効率改善タスクチームの立ち上げ、ツアー訪問先企業が提供するサービスの自社顧客へ紹介に向けた調整など、地域内でのデジタル化・DX 推進やマッチングの成果が得られた。

①北九州 DX ツアーの実施

デジタル化・DX についての知見を深めるため、北九州地域内で先進的に取り組まれている企業へ実際に訪問し、現地で事例の説明を受ける「北九州 DX ツアー」を開催。

日付	訪問先	業種	参加人数
6月12日	戸畑ターレット工作所	製造（金属加工）	23名
6月13日	クラウン製パン	製造（食品）	23名
6月20日	西原商事ホールディングス	廃棄物処理・運輸	22名
6月26日	グランド印刷	印刷	18名
6月27日	岡野バルブ製造	製造（バルブ・メンテ）	28名
7月11日	不動産中央情報センター	不動産	24名

②課題整理ワークショップの開催

社内でデジタル化や DX に取り組んでいる方、これから取り組もうとする方が、自社の課題を具体的に洗い出し、整理することで次のステップに進むための道筋を見つけることを目的としたワークショップを開催。

【日 時】 7月25日 14:00-17:30

【参加者】 28名

【内容】 ●株式会社 kubell インプットセミナー

●事務局による視察ツアー振り返り

●自社課題整理ワークショップ①：個別ワーク

～課題の抽出方法・優先順位づけ・課題の構造～

●自社課題整理ワークショップ②：グループワーク

～課題に対する意見交換会～

●交流会

③地域 DX 共創活動助成金の設立

北九州地域で他事業者との連携によりデジタル化・DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める共創活動を行う団体に対し、活動資金を助成する「地域 DX 共創活動助成金」を設立。

・助成額（いずれも助成率 1 / 1）

・DX 共創準備枠：20万

特定の共創テーマのもとに、これから共創相手（構成員）を見つけ、活動を拡げていく活動

・DX 共創実践枠：30万

特定の共創テーマのもとに、構成員同士の間で共創を実践していく活動

<採択者>

申請枠	団体名	代表法人名	活動テーマ
準備枠	西日本医業デジタル研究会	(株)佐々木総研	クリニックや診療所の医業 DX・デジタル化に関する研究

実践枠	ケア共創ネットワーク	(同)共創テクノロジー	介護現場における3Dプリンタ導入トライアルと評価検証プロジェクト：企業連携による先端技術導入促進研究会
実践枠	早稲田大学IPS・北九州コンソーシアム	早稲田大学	官民一体となった強い組織づくりとDX推進のためのワークショップ
実践枠	製造業IoT活動研究会	イジゲングループ(株)	製造業IoTの導入及び実証実験
実践枠	北九州市IoT実践研究会	(株)戸畑ターレット工作所	サイバー攻撃から身を守るサイバーセキュリティBCP研修

④共創セミナーの実施

地域DX共創活動助成金採択団体の広報・PRと、地域内でのデジタル化・DX共創活動の周知を兼ねた共創セミナーを開催した。各回の満足度は高く、大半の参加者から今後の共創活動への参加意向も得ている。

共創セミナー参加をきっかけに採択団体の活動に興味を持ち、団体が実施するイベントや部会活動への参加も発生している。

プログラム	開催日	参加者数
地域DX共創活動キックオフイベント 【登壇者】 <トークセッション> (株)エスマット 代表取締役 林 英俊 氏、(株)戸畑ターレット工作所 DX推進課 課長 中野 貴敏 氏 モデレータ：9 Capital 代表 竹山 将志 氏 <北九州地域DX共創活動者によるピッチ> (株)戸畑ターレット工作所 DX推進課 課長 中野 貴敏 氏、(同)共創テクノロジー 代表社員 山崎 駆 氏、イジゲングループ(株)PDB本部 マネージャー 平畑 輝樹 氏、(株)佐々木総研 ICT活用推進課 マネージャー 綾部 一雄 氏、早稲田大学教授 吉江 修 氏、(一社)サステナビリティ・DX推進協議会 代表理事 藤田 祐介 氏、グランド印刷(株) 代表取締役 小泊 勇志 氏	10月24日	41名
地域DX共創活動事例紹介 【登壇者】 <共創座談会> ・セッション① 北九州IoT実践研究会 (株)戸畑ターレット工作所 DX推進課課長 中野 貴敏 氏、シャボン玉石けん(株) 製造部製造2課 係長 梶原 潤 氏、吉川工業ファインテック(株) プレス製造部 主任技師 藤田 剛克 氏 ・セッション② 早稲田大学IPS・北九州コンソーシアム 早稲田大学 教授 吉江 修 氏、(株)リョーフ 代表取締役 田中 裕弓 氏、(有)ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子 氏	12月19日	51名

<p><DX 共創活動団体活動シェア> (同)共創テクノロジー 代表社員 山崎 駆 氏、イジゲングループ(株) PDB 本部 マネージャー 平畑 輝樹 氏、(株)佐々木総研 ICT 活動推進課 マネージャー 綾部 一雄 氏</p>		
<p>地域 DX 共創活動最終発表会 ※北九州市 SDGs スタートアップエコシステムコンソーシアムが主催する WORK AND ROLE2025 内スポンサーセッションとして実施 トークセッション登壇者：(株)戸畑ターレット工作所 中野貴敏氏、早稲田大学 吉江 修 氏、(株)佐々木総研 織部 一雄 氏、(同)共創テクノロジー 山崎 駆 氏、イジゲングループ(株) 平畑 輝樹 氏、寶結(株) 代表取締役社長 福岡 広大 氏、(株)ユビキタス AI 代表取締役社長 長谷川 聡 氏</p>	<p>3月28日</p>	<p>50名</p>

III 中小企業の経営支援と創業の促進

1 中小企業の経営支援と創業支援

(1) 中小企業経営支援事業

中小企業支援センターでは、総合相談窓口、専門家派遣、セミナー、創業・ベンチャー支援等の活動を行い、令和6年度は、創業31件、課題解決226件、マッチング支援7件などの支援実績を得た。

① 中小企業・ベンチャー総合相談窓口事業

中小企業支援センターに中小企業診断士等の専門家を配置し、経営に関する幅広い相談や国などの補助金等の申請支援等も行い、年間約500件の相談に対応した。

加えて、近年、中小企業の課題となっている事業承継に関する相談に対応するための窓口を設置し、35社、41件の相談に対応した。

また、製鉄業の電炉化転換時に影響があると考えられる企業への訪問相談事業を実施し（年間訪問件数159件）、業況の把握などを行った。

② 専門家派遣事業

中小企業支援センターに登録している中小企業診断士、技術士、税理士、社会保険労務士等の専門家（登録人員約300名、令和7年3月末現在）を必要に応じて中小企業に派遣し、個別の経営課題の解決にあたった。

実施企業 3社（派遣回数15回）

③ 情報収集提供事業

市内中小企業等が経営上必要とする各種情報を機関紙やホームページ、メールマガジン等を通して幅広く提供するとともに、各種セミナーを開催した。

メールマガジン登録件数 3,678件 Facebook 投稿数 41件

ホームページアクセス件数 51,397件

④ 巡回指導・マッチングコーディネート事業

巡回相談・マッチング担当が企業を訪問し、各種相談に応じながら支援施策の紹介等を行うとともに、ものづくり企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援した。

項目	件数
巡回相談件数	294件
マッチング件数	7件（企業同士を仲介、面談）
上記のうち成約件数	1件

⑤ 起業セミナー事業

起業を目指す人を支援するセミナーを実施した。

セミナー名	開催日	修了者数
実践起業塾 2024	9月7・18・25日 10月2・12日	9名

2 知的財産権関連支援

北九州知的財産支援センター運営事業

INPIT（福岡県知財総合支援窓口）と連携し、特許等の知的財産権に関する中小企業等への支援を進め、約600件の相談等への助言を行った。

- ・ 特許相談と支援 563件
- ・ 専門家（弁理士）による無料相談と派遣による支援 45件

【収益事業等会計】

(1) 学研都市施設活用事業 施設

収益事業（駐車場管理運営、自動販売機設置）を実施し、学研都市の入居者や来訪者の利便性の向上に寄与した。

(2) 財団ビル運営事業 施設

情報産業の集積活性化のため、財団ビルの管理運営（テナント企業へのオフィス賃貸、並びにマルチメディアホール及びセミナールームの貸出サービスなど）を行った。

令和4～5年度で照明のLED化工事を完了し、安全で快適なビル環境の整備に努めた。

[参 考] 財団ビルの入居状況（令和7年3月31日現在）

○入居企業・・・9社（入居率約87.1%）

フロア	入居企業名
7階	日鉄ソリューションズ(株)
6階	セイコーエプソン(株)
5階	セイコーエプソン(株)
4階	セイコーエプソン(株)
3階	(株)ソフトサービスライフケア、日本ビジネスシステムズ(株)、エプソン販売(株)
2階	(株)TMJ、TIG(株)、SBモバイルサービス(株)
1階	九州日本信販(株)、エプソン販売(株)（ペーパーラボ）

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等

財団を運営していくために必要な人件費及び事務費を支出した。

事業報告の附属明細書

下記の理由により掲載を省略している。

記

令和6年度の事業内容は、事業報告に詳しく記載しており、これを補足する重要な事項はない。

以上